

令和6年度第2回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和7年2月3日（月） 午前10時00分～午前10時35分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	<b>【委員】</b> 出席：高瀬委員長、太田副委員長、中川委員、長澤委員、大崎委員、金子委員 欠席：松本委員 <b>【事務局】</b> 市民生活部 横山部長 くらし支援課 田上課長、種田課長補佐、米内係長、目黒主任級主事、岡村事務補
議事内容	<b>1 開会</b>  <b>2 報告事項</b> <b>(1)環境学習開催結果について【資料1】</b> ※事務局より【資料1】について報告  ※委員より【資料1】について講評 委員：高校生にとって、普段同じ年代の人としか交流がなく、学校の中では異世代、異年齢と交流する機会がない。この保育園児との交流は自分自身を振り返ることで、どういうふう言葉がけをしたら良いのかといったような他者意識の涵養に非常に有効なプログラムだと自負している。内容については主に科学工作をやっているが、これは生徒たちがまず自分たちが得意な分野で子供たちと交流することでコミュニケーション能力の育成することを重視している。その後、有志の生徒を募り、春休みに学童クラブと協力し、環境学習ということで、例年は環境問題に関するゲーム、昨年は知床財団から借りたヒグマのトランクキットを使い、野生動物との共生というプログラムを実施している。今年度も同じ予定で考えており、計画段階だが次のステップという形で広めていきたいと考えている。  全件報告済  <b>3 協議事項</b> <b>(1)滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書（案）について</b> <b>(2)市長への提言書の提出について</b> <b>【資料2-1】【資料2-2】</b> ※事務局より【資料2-1】【資料2-2】について説明  ※委員より【資料2-1】【資料2-2】について講評 委員：高校生が保育園児と一緒にあって、自ら言葉する発するという非常に大事なことを、昨今の中高生がスマホを見る時間が多い状況の中で実施することは大事なことだと思った。若い子との職場でも、LINEであれば紋切り型に言葉を発せられるが、事務文章にすると何を言っているかわ

からないことがある。そういうことを含めて、高校時代から自分で発して、自分の言葉にしていくことは大事なことだと思った。

委員：環境というものは、華々しいものではなく、コストはかかるが成果に反映されにくいもの。昨今のトランプ政権になってからはSDGsを含めて環境政策が後退しそうではあるが、我々ができることは地道にでも進めていくしかないと感じたところであり、提言という形で進めていくしかないと感じた。

委員：環境は市民の意識が大事だと思っている。また、ごみの分別も非常に大事であり、ごみのポイ捨てが世の中に多いという印象がある。適切に分別し、排出するという認識が広まってほしいと考えており、引き続き対応をお願いしたい。

委員：インバウンドの関係だが、海外の人はごみは誰かが片付けるもの、日本人は出たごみは自分たちで片付けるものと、日本人と海外の人のものの考え方が違うのか、スキーのロッジに行くと食べたものが散乱している。海外の人にとってはそれが当たり前だが、我々はどういう心構えをして対応をしていけば良いのだろうか。まだ滝川市はインバウンドの影響が少ないが、美唄市や岩見沢市の駅に行くときと海外の人がたくさんいる状態だと聞いている。インバウンドをごみという1つの観点で見たときにインバウンドの人に対する啓発や普及といった意識付けが準備として必要ではないだろうか。

事務局：我々の方では、これまで菜の花の時期にインバウンドの話があったとは思いますが、準備はできておらず、市民に対しても同様に注意を含めてできていないところがある。機会を見ながら、積極的に対応を行っていきたいと思う。

委員：提言書については一通り良いかなと思う。環境教育ということでは、教育現場の中で農業体験やごみ問題、食育について学校で扱っている。評価シートには、実際に今行われていない事業があるので、整理をしたら良いと思う。例えば、國學院短大の関係も記述があるが、コロナウイルス感染症の関係でやらなくなって以降、第一小学校、東小学校を含めて現在、記述されている取組を実施していないのが現状なので、そういう部分を整理したら良いと思う。また、小学校を含め、大学の教授や外部の講師を呼び、環境教育に関わる部分が行われているので、その部分の記述があれば評価につながると思う。

事務局：新たに実施したことについては項目を増やして追加していくこととする。

委員：私は國學院短大が実施していた取組に派生する取組に直接ではないが関わっており、國學院短大の既に退官された前任のゼミの先生と札幌の環境財団に協力いただいて、環境学習リーダーの最初の基盤を作っていた。國學院短大との交流は続いているが、足掛かりとしては非常に良かったと思っており、この取組が根付いたことによって、色々な取組に発展したことがありがたかった。また、滝川市にある既存の資源を有効活用できる鍵となるのが、小学校、中学校、高校の取組や環境教育であり、その中でお互いに利活用したり、生徒の活躍の場所をつくることで、それぞれが良い学びになると思うので、取り組んでいきたいと考

えている。環境教育については、知床財団の研究員の方と話をする機会があった際に、小学校からクマに対する教育をしているので、自然と対処方法が身についているという話を聞いた。また、高校生を連れて宮城県へ東北研修に行った際、有名な話として岩手県の「釜石の奇跡」について、小学生が「津波てんでんこ」というどういうときにどうするのかということを徹底的に学んでいるという話があった。それが身に付いて自分の命を助けることにつながったという話であり、これらの話に共通しているのが、防災であったり、環境であったり、取組だけでなく取組自体がその町の文化になっていること。滝川市としても教育委員会を中心にリーダーシップをとって取り組んでほしいと思うことは、取組もそうだが文化を創っていくという視点で、色々な学校や金子さんのように活躍している人を上手く活用して、「滝川市といえばこういったことをやっていますよね」というような滝川市の文化を創っていくことであり、それがすごく重要であって、そういう部分では滝川高校は環境教育に力を入れていることから、彼らの学びのためにも小学校に行っても何かをやるといったことを1つの授業として確立していくことができれば、お互いに学びの場になると思っている。

委員：インバウンドについてだが、たくさん来て、ごみが散らかっているという問題について、YouTube を見ていると、例えば日本はどこを歩いてもきれいで、外国はそれこそ飲食店の中はごみだらけ、路地裏もごみだらけということがあるが、私が学生のころはそこら中にごみ箱が設置してあって、ごみはごみ箱に捨てていた。今はごみ箱がどこにも設置していないことが、ごみが散乱する一番の問題だと思っている。確かにごみ箱を設置し色々なごみが入ることで処理費をどうするかという問題が出てくる。3年前に三楽街でも分別しないごみがたくさん入れられるくらいにならない方が良くして、オーナーさん達によりごみ箱が全部撤収されたことがあったが、ごみ箱を30～40年前とまでではないにしても要所要所にごみ箱があれば、日本人がごみをそこに捨てる姿を見て、言葉がわからない海外の方もごみを捨てると思う。知り合いに買い付けをしに来る海外の方がいるが、2人で車に乗っていたところ道路に落ちていたごみの入った袋を見つけた海外の方が止まって、自分の車にごみの入った袋を回収する姿を見て、日本人の私でもしないことをするんだと関心したことがある。そのため、私はごみ箱を増やすことがごみのなくなる第一歩だと感じている。

委員：私は1年前までプロギングについて知らなかったが、趣味で走っていたところ、雪の中からごみがたくさん出てくる場面に出会った。何だこれはと思ったところでプロギングを知った。プロギングはごみ拾いとジョギングを兼ねたフィットネスで、色々な人と関わったりしながら、ごみを宝探的なゲーム感覚でやるものとして始めた。皆さんに協力していただき、月に1回のイベント的なことをやっていると、市民の皆さんのごみを見る目が変わり、ごみを拾いたくなるという声を聞いたり、毎週のように個人的にやる方が増えた。私の中ではごみ拾いは人と関わることを楽しむための1つのツールであって、プロギングに参加した皆さん

が自主的に取り組み、「ごみが落ちていたから拾ってきたよ」といった声をたくさんいただけるので、そういうところを大人だけじゃなく学生さんであったり、いろいろな団体さんであったりに広げていければ良いと考えている。この評価シートについては、今後さらに有効活用されるものになる。提言書については、これまで継続してきた取組の記載もあり、今後に向けての見通しについても触れられているので、このように進められると良い。

委員：インバウンドは、海外の方でも日本に根付いている方は、自分のごみは自分で片付けるという意識が根付いているが、観光で来られる方の意識をどうするかという問題が大きいと思う。今はやっていないと思うが、過去、市職員で雪解け後の道道江部乙赤平線のごみ拾いをやっていたときは、ほぼ日本人がごみのポイ捨てをしており、トラック何台分にもなった記憶がある。また、コンビニにわざわざ来てコンビニのごみ箱に自分のごみを捨てていく人を見ると、やはり自分のごみはしっかり自分で片付けないといけない。地道に意識を促していくことになると思っている。

原案どおり承認

#### 4 その他

##### (1)今年度の環境市民大会について

※事務局より説明

※講師の委員より挨拶

委員：プロギングメンバーと一緒に講師をやらせていただけるということで、せっかくの機会なので、講演をさせていただくことになった。毎回のプロギングには市民の方はもちろんのこと市外からも滝川市のごみを拾いに来てくださる方がいるので、市民の皆さんが地道に取り組まれていることも含めてお伝えできればと思っている。よろしく願いしたい。

##### (2)来年度の環境市民委員会について

※事務局より説明

#### 5 閉会